健康人間学のアゴラ

京都大学医療技術短期大学部
主事　齋明寺　央

京都大学医療技術短期大学部に奉職して，年を経るとともに，この分野の現在と将来を真剣に考えるようになった。そして，真に期待される人材をこの分野に導き，その人格，能力を理想に向って最大限に成長させる方法は，教育制度の改善しかないと確信するに至った。それでは，何を目標としてかかげたのか。1984年秋から，衆智を集めて討議をくりかえした後に到達したのが，健康科学であった。健康を，自然科学のみならず，人文科学，社会科学を総合して，学際的，統合的に研究し，深化して，健康科学として確立すべく，京都大学の学部とし，更に大学院制度を完備することである。

そこで，学内研究プロジェクトとして推進されたものの一つが「健康人間学」である。

ここに思い出すのは，今は亡き恩師，前川孫二郎先生の唱えられた，アゴラ的広場である。アゴラ (agora) とは，古代ギリシアの都市において，政庁・神殿・商店などに囲まれた公共広場で，市民の集会の広場であった。ソクラテスはこのアゴラにおいて市民と対話することにより，彼の，そして市民の哲学を確立したといわれる。

健康，それを体現する人間について，私の理解は非常に浅くかつ一面的であることを，常々痛感してきた。自然科学ではまずデータを示す必要がある。そしてそのデータが正確か否か，すなわち方法と，方法に使われた測定器，さらにその際の条件などが吟味されなければならない。人文科学や社会科学では，どのように吟味されるのであろう。

幸にして，本短期大学部には，哲学，文学，教育学，心理学などをはじめ，保健体育，基礎科学，看護学，助産学，理学療法，作業療法，基礎医学，臨床検査学，臨床医学の各分野を専攻する学徒が集っている。これらの人達が，健康科学の確立をめざして，健康と人間について，この「健康人間学のアゴラ」で，対話を通じて思考を深めてゆかれることを希望する。前川先生がすすめられたように，自分のテーマで，自ら欲したときに，簡明に自分の言葉で，同好の士の批判を求めて話しかけられることを，心から期待するものである。